



# 時計台の鐘

第 73 号

特定非営利活動法人

さっぽろ時計台の会

会長 木原直彦

札幌市中央区北1条西2丁目

重要文化財・時計台内

TEL 011-251-5944

## 130周年記念行事のこと

会長 木原直彦

年明けの朝日新聞に、日本一の大学キャンパスはどこか、という選定記事が載っていた。北大が東大（本郷）をおさえて一位に推されている。「緑豊かで広々とした歴史ある」イメージが最大の理由というが、入学者の半数が道外からで、彼らは気候・風土・学風を志望理由としているそうだ。札幌農学校以来の「少年よ大志を抱け」という精神が脈々と受けつがれているからにはかなるまい。

札幌農学校のキャンパスは、もちろん今の時計台周辺であった。クラーク精神の発祥地なわけである。昨年は、時計台創建一三〇周年という記念すべき年だった。時計台まつり実行委員会が主催し、私どもの会が主管となって二つの大きな事業を催した。別紙のように、展覧会「時計台の鐘とともに」の開催と、記念誌「時計台ものがたり」の刊行である。幸い好評をもって迎えられて大いに気をよくしているが、考えてみれば、市民の皆さんがいかに時計台に対して強く深い記憶と愛情を持っておられるかにほかならない。

意識して「時計台のなかの市民」市民のなかの時計台を考慮しながら作ったことでより実感したわけだが、あらためて、時計台は札幌のシンボルなり、と誇らしくおもったものである。さまざまご感想をいただき貴重な財産となったが、そのうちの一つだけ書いてみる。

H君は昭和二十年年代の若き日、故郷を飛び出して札幌で放浪にも似た生活をしていたことがあったという。住いは今のファクトリーのあたり、仕事に疲れて安下宿に帰ってきてセンベイ蒲団にもぐりこんでいると、夜の静寂のなか時計台のカーン、カーンという澄んだ鐘の音が響いてきた。その音を聴くたびに、郷愁にかられ、来し方行く末におもい悩んだものだ、とH君は話してくれた。「今でもあの鐘はオレの体の中に染み込んでいて、忘れられないんだな」。そしてあるとき「ある覚悟が沸いてきたんだよ」とも付け加えるように言った。H君にとって青春の掛け替えの財産の一つなのになにがいない。



カット絵は、関堂圭子さんの四季の時計台絵ハガキから

# 時計台創建一三〇周年記念行事

## 華やかに・盛大に 特別企画も大好評

### 記念展覧会

#### 「時計台の鐘とともに」

八月二十一日 木原会長の挨拶に引き続き、上田市長の「時計台は札幌市民の財産。ずっと鐘の音を響かせてほしい」等のご挨拶があり、ミスさっぽろの介添えの下、上田市長、喜多道新事業局長、木原会長の三者によるオープニングセレモニーのテープカットが行われ、六日間わたる展覧会の幕があがった。



壁面(文字パネル、写真、古地図など)と平台(本、雑誌、新聞、グッズなど)を使用し、五五〇点にのぼる作品展示を行った。案内チラシ、案内はがき(官製、私製)による広報活動、道新の広告(四回)、道新・朝日等新聞による紹介記事等々の効果もあったのか、二、〇〇〇人を超える市民の方々の鑑賞をいただき、本格的な展覧会と名実共に高い評価をいただきました。

記念誌「時計台ものがたり」  
市民と共に



上田文雄札幌市長や作家の渡辺淳一さん等の時計台にまつわるエッセイをはじめ、時計台や札幌農学校の歴史、塔時計や建築物としての時計台の解説、図書館時代の時計台、名曲「時計台の鐘」に関すること等々、貴重な写真や資料を含んだA五判、一三〇ページほどの冊子で、創建記念日の十月十六日に発刊された。



#### 時計台の鐘とともに

国指定重要文化財「札幌農学校演武場(時計台)」の初めての本格的な展覧会です。市民に愛され継ぎたい明治・大正・昭和・平成と歩んで来た時計台―古写真や古地図など数々の貴重な資料を豊富に陳列していただきますのでお越しください。

会場 道新さっぽろ1(北海道新聞社 6階 大倉西三丁目入場無料)  
会期 8月21日(水)20日(木)の6日間(10時~19時 最終日は15時)  
主催 時計台まつり実行委員会、北海道新聞社  
主管 NPO法人さっぽろ時計台の会(011-251-5994)

チラシ



展示風景

二十三日に行った裏千家淡交会青年部による呈茶では、用意した一二〇個のお菓子が二時間ほどでなくなるほどの賑わいを見せていました。



札幌市内主要書店にて好評発売中 (定価は525円)

大変なご好評をいただいております、時計台売店のほか市販も好調とのことである。また、時計台まつり記念行事である「市民文芸作品コンクール」の、過去四年間の優秀作品集も掲載されており、聞きつけて買い求めていく愛好家の姿も見られた。

# 道新の記事より

(10月18日掲載)



## 卓上四季

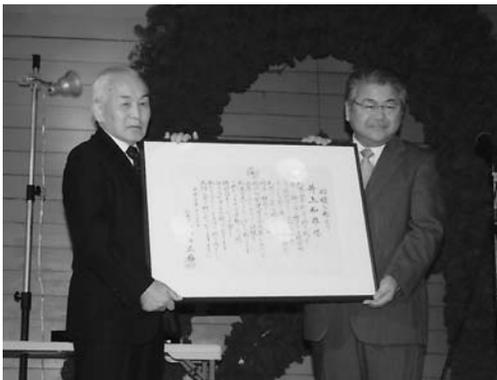
踊りや歌舞伎の「演舞場」ならばよく聞かぬが、「演武場」とは、ほかではあまり見かけない。札幌農学校の演武場として建築された時計台が、百三周年を迎えた▼英語で「ミタリーホール」、兵学を教える目的があった。完成から三年遅れ、時計と鐘が備わる少し前まで、時刻を「明け六つ」などと呼んでいた当時だ。天体観測所を併設し、北海道の標準時を刻んだ▼時計もそうだが、人々に親しまれたのは鐘の響きだろう。札幌生まれの随筆家・森田たま（一八九四―一九七〇年）が、激しい吹雪の日に聞く鐘について書いていると、文芸評論家の木原直彦さん（さっぽろ時計台の会長）に教えられた▼「ストオヴの前で、じっとその音いろに耳を澄ましてみると、どこか家でもいま……耳を傾けているにちがひないと思はれ、みんなのぶじな事が、自然に心に伝はってくるのでした」。ラジオも自動車もなかった時代に、鐘の響きが人々を結びつけた▼かつて農学校は、時計台の位置から北東二丁ずつ広がっていた。空がさぞ大きかっただろう。いま時計台は高いビルの谷間で首をすくめている。鐘の音も街や車の騒音にまぎれ、少し離ればなかなか気づきにくい▼「がっかり名所」などと冷やかされることもあるが、違うだろう。鐘から百三十年の時の移ろいが響く。人は何を捨て、何を失ったか。たまに、耳を澄ますのもよい。

# 第27回 時計台まつり 記念行事



## 創建記念式典・各種表彰式

今年度も上田札幌市長、奥岡札幌市教育委員会教育長のご参列をいただき盛大に開催することができた。例年の児童絵画展および市民文芸作品コンクール優秀者の表彰に先立ち、今年度は創建一三〇周年記念特別企画として、時計機械の保守・整備を親子二代の永年にわたり尽力されてきた「井上和雄さん」の特別功労者市長表彰が行われた。また、時計台による時計台紙模型コンテスト優秀者表彰も行われた。



井上さんの市長表彰



## 演奏会等

- ① 演奏会 六月二十六日(木) サクソフォンの響演
- ② 演奏会 七月二十六日(土) ピアノとコーラスの夕べ 栃原享子・美唄市民合唱団 ほか 八月二十六日(日) 「農学校演武場」と「時計台の鐘」 前川公美夫
- ③ 講演会 「開拓使と開拓使ビル」 田中和夫 北大恵迪寮歌とOB会愛唱歌 北海道大学合唱団OB会 九月二十六日(金) 音をつむいで絃をうたう 箏(三十絃)と他楽器との合奏 箏曲宮下社北海道支部 一〇月十六日(木) アコースティックライブ in 時計台 ヒートボイス
- ④ 演奏会
- ⑤ 演奏会



演奏会風景



呈茶を楽しむ観光客

平成20年度 会の主な活動

- 3月25日 時計台創建130周年特別企画についての3者事務局会議(本会、市文化財課、時計台)
- 4月9日 同上会議
- 15日 時計台まつり実行委員の委嘱依頼
- 19日 会計監査
- 26日 第1回理事会 創建130周年記念事業特別企画案審議
- 30日 時計台まつり実行委員会「広報さっぽろ」6月号原稿依頼
- 5月13日 第2回理事会 総会議案審議
- 17日 創建130周年記念切手販売開始(50円切手シート2種)
- 23日 札幌市へ記念行事負担金交付申請  
梅津奨学院、道新、北電へ、その後順次申請  
札幌市、NHK等へ名義後援、協賛、特別賞出賞の依頼 小学校長等関係各所へ後援申請
- 24日 通常総会
- 28日 北海道新聞社へ第1回時計台まつり記念演奏会の広報依頼
- 6月16日 児童絵画展、文芸作品コンクールの審査委員委嘱依頼
- 26日 第1回時計台まつり記念演奏会サクソフォンの響演
- 7月1日 児童絵画作品募集案内依頼
- 8日 区役所、区民センター他へ文芸作品募集のチラシ配布
- 10日 道新社告 児童絵画、文芸作品募集記事掲載
- 26日 第2回時計台まつり記念 ピアノとコーラスの夕べ
- 8月1日 市民文芸作品コンクール作品受付開始
- 7日 時計台創建130周年記念展覧会「時計台の鐘とともに」の道新社告、広告欄に掲載される
- 21日 時計台創建130周年記念展覧会「時計台の鐘とともに」開会セレモニー26日まで開催
- 26日 第3回時計台まつり記念 講演と北大合唱団OBによる合唱
- 27日 文芸作品審査依頼
- 9月1日 児童絵画展作品受付開始
- 19日 児童絵画作品審査会
- 24日 道新に市民文芸作品コンクール入賞者発表
- 26日 第4回時計台まつり記念 箏曲三十絃コンサート
- 10月3日 道新に児童絵画展入賞者発表
- 10~16日 児童絵画・市民文芸優秀作品展示
- 16日 時計台創建130周年記念式典・優秀者表彰式 記念アコースティックライブコンサート  
記念誌「時計台ものがたり」発刊  
後援・協賛事業終了報告とお礼
- 11月4日 時計台まつり記念行事会計監査
- 14日 第2回時計台まつり実行委員会
- 12月11日 第3回理事会 時計台創建130周年記念行事の総括
- 1月4日 時計台まつり記念行事出演者の公募「広報さっぽろ」に掲載  
同「道新」に掲載  
5日 従業員増員募集  
15日 従業員増員募集  
2月1日 会報73号発行予定

大島正健―時計台寸描②

木原直彦

内村鑑三に私淑し戦後間もなく東大総長を務めた矢内原忠雄が、明治初期の官学教育には国家主義の東大とリベラルな札幌農学校という二つの源流があった、と書いている。

明治十三年(一八八〇)に演武場で一回生の卒業式が行われたが、その中に大島正健がいた。卒業生たちは各領域で指導的役割を果しているが、特徴的な一つに中等教育がある。大島はそのトップランナーだった。札幌バンドの中心的人物であり、内村とともに無教会主義で活躍しているが、ここでは山梨県立甲府中学校校長の時代に触れてみたい。

大西勉氏が記すところによれば、戦後に甲府第一高校と名を変えた前庭に大島の彰徳碑が建ったという。昭和四十年、その除幕式が行われたとき、教え子で発起人の石橋湛山が胸迫る感動の祝辞を述べた。大島校長からクラーク精神を教えられ、学問や生活の覚悟と方針をもってこの学校を卒業したのだ、と。

湛山は、戦時さなか軍部に屈せず徹底した自由主義を貫いたジャーナリストであった。戦後になって総理大臣を勤めているが、札幌農学校のクラークの精神は、この学校では大島から湛山たちに受け継がれていったわけである。

事務局だより

●時計台創建一三〇周年を迎えて、前年度(百十九)十二月より各種会議・準備を進めてきたが、会長自らの奮闘もあり、前述のとおり大きな成果をもって終了することが出来、一安堵しております。●特別企画行事の他に、創建記念五〇切手シートの販売記念ウィズユーカードの発売もされました。

●前号に引き続き、残念な訃報をお伝えしなければなりません。副会長の斎藤大雄先生が昨年六月二十九日にご逝去なされました。数週間前までお元気な声を聞いておりましたので、突然の悲報に驚愕いたしました。本会としては無論、北海道の文化界として、誠に大きな柱を失ったこととなります。祈ご冥福

▼記念ウィズユーカード



▲50円切手シート